



咎

桜

CONTRACT OF CHERRY BLOSSOM GUILT
PRESENTED BY FUKUYA FUKU

吹屋フロ

とお
がの
ちぎ
り

の

花

契



CONTRACT OF CHERRY BLOSSOM GUILT
PRESENTED BY FUJIVA FURD

第一話
鬼ノ島

第二話

鞍馬の天狗と花義経

第三話

義経と頼朝

最終話

船義経

番外編

詠う青山

ザン

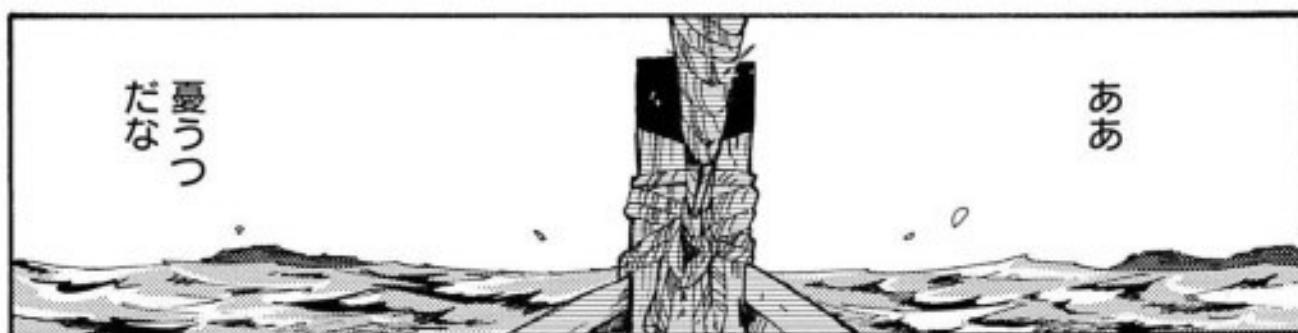
— 治承三年・五月某日 —

第一話
鬼ノ島

ザン

ザン...

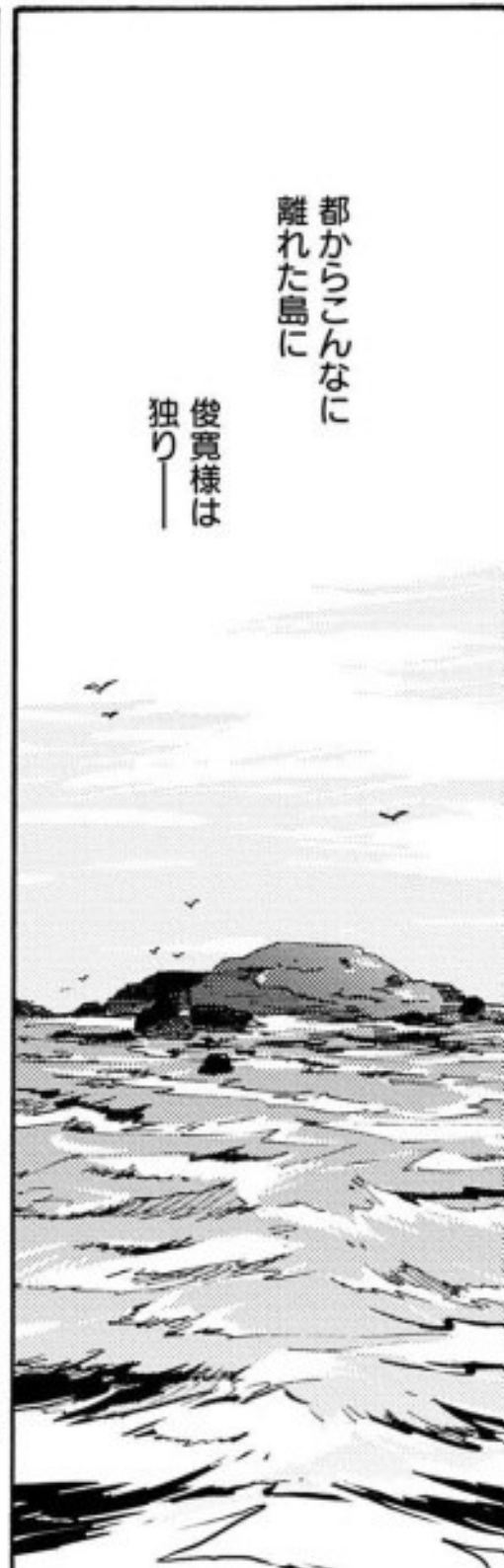




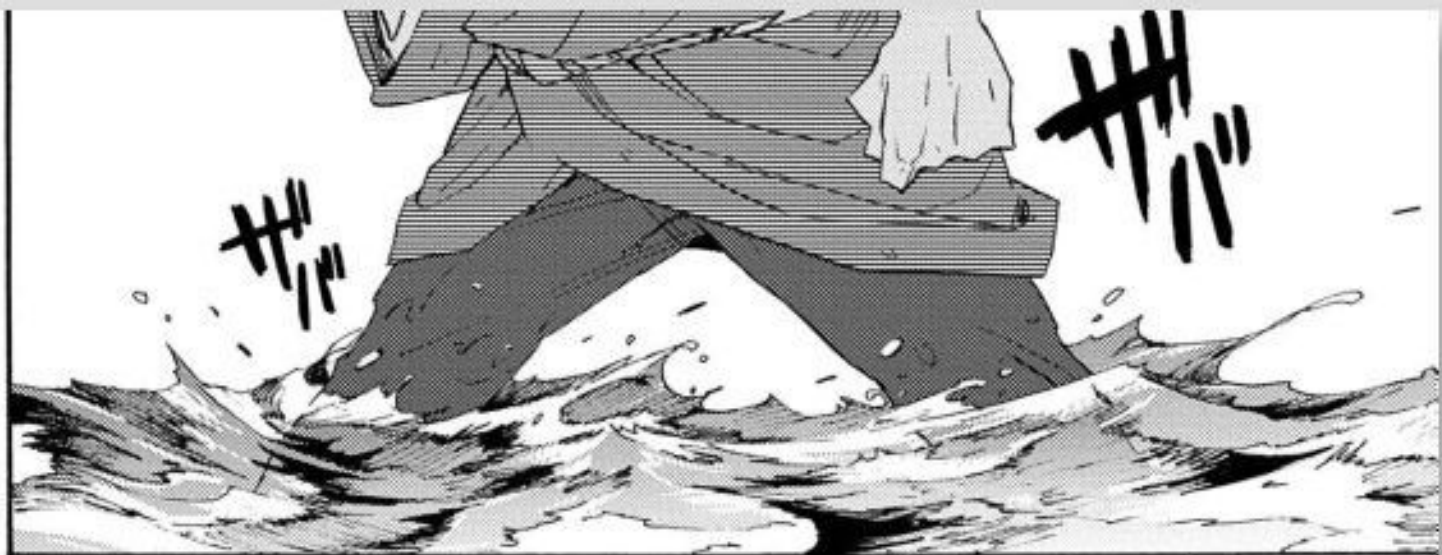
事共に連れて行け











ええ
まあ：

何やら偉い
坊さんらしいが
島流しにあつちや
おしまいだなあ

アタシらも都から
流された御仁だから
可哀想に思つて
芋やら食べ物を
をわけてやつて
たんだが

最近皆
気味悪がつて
よう近づかん

気の狂いじゃ
ゆうてな

まあええ
ほれこの芋でも
持つていけ

飢えて死なれでも
したら寝覚めが
悪い！

——俊寛様は
元より気難しい
御方だ

幼時より仕えて
きたが

時々意味もなく
殴られもした

はあ

だが、私は









…何じゃ
その目は！

貴様は今
俺を心底
馬鹿に
したな！

謝れ！

謝れえツ！！

は…

はいっ

さば

も…
申し訳

ごさいません
でした

うつ……

うおーん

おーん

何だ…

人であつて
人ではないなどと
皆言っていたが

私にとっては
何ひとつ
お变りのない
俊寛様ではないか

相変わらず
狂つて
いらつしやる

おあー

だが私は
そんな気狂いの
側にいなければ
生きている価値の
ない人間だ

俊寛様

都より
酒を持って
参りました

幼き頃より
仕えて参り

私はどうしていいのかわからなかった

…俊寛様？

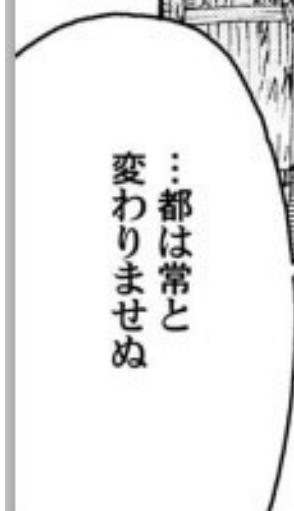
件の鹿ヶ谷事件で
俊寛様が島流しに
なられてからは

是非――

住まいは
平家の侍に奪われ
家の者も
皆逃げ去った

うう……





常と変わりませぬが
鹿ヶ谷の事件以来
平氏の評判はあまり
宜しくありません

何でも清盛入道は
後白河院まで
幽閉しようとして...

ふん

つまらん

は...

有王
お前

俺を
楽しませる事
にかけては
人一倍得意で
あったろう

早う
脱がんか

何じゃ
京より下つてきて
俺の酒の肴にも
ならんのか

ヤア...

あ...

しよ承知
致しました







ここにきてそろそろ
一ヶ月ぐらいだろうか

私は俊寛様の
身の回りのお世話を
させて頂き

夜は時々
抱いて頂いている



たまに
痾瀉を
起こされて
殴られも
するが
それ以外は
平穏な日々だ

有王
さあん！



また芋ばかり
で悪いんだけど
良かったら

わあ！
ありがとうございます



いつも
すみません

いいよオ
気にしないで

アンタ結構
村の女に人気
があるんだよ



アタシもこうして
一緒に話していると
楽しいからさあ





有王！ 貴様
あの女と何を
話しておった！

いつも
俺に隠れて
コソコソと…

どうせ二人で
俺の事を笑って
おったのであらう！

な…

何を
おっしゃい
ます！

あの方は
いつも食べ物を
わけて下さる
方で…

私は
そのお礼を
申していた
だけです！

…何じゃ
有王

お前
ああいう
年増が
好みか

俺という
主人を持ち
ながら…

この裏切り
者めが！

…しゅ
俊寛様…

やめ…



お前は何故
ここへ来た！

俺は世のすべてを
あきらめようと
していたのに

有王
お前のせいで
その決心が
揺らぐのだ

召使いの分際で
俺の心を弄し
おって

お前など
こうして犯される
価値しか
ないんだぞ

俺の言う事を
聞いておれば
よいのだ

わ

私は…

ハッ

はっ

！

ぐいっ



—そうか

有王
お前も

俺を捨てる
のだな



俊寛様
違います！

私はあなたの



俊寛様……！

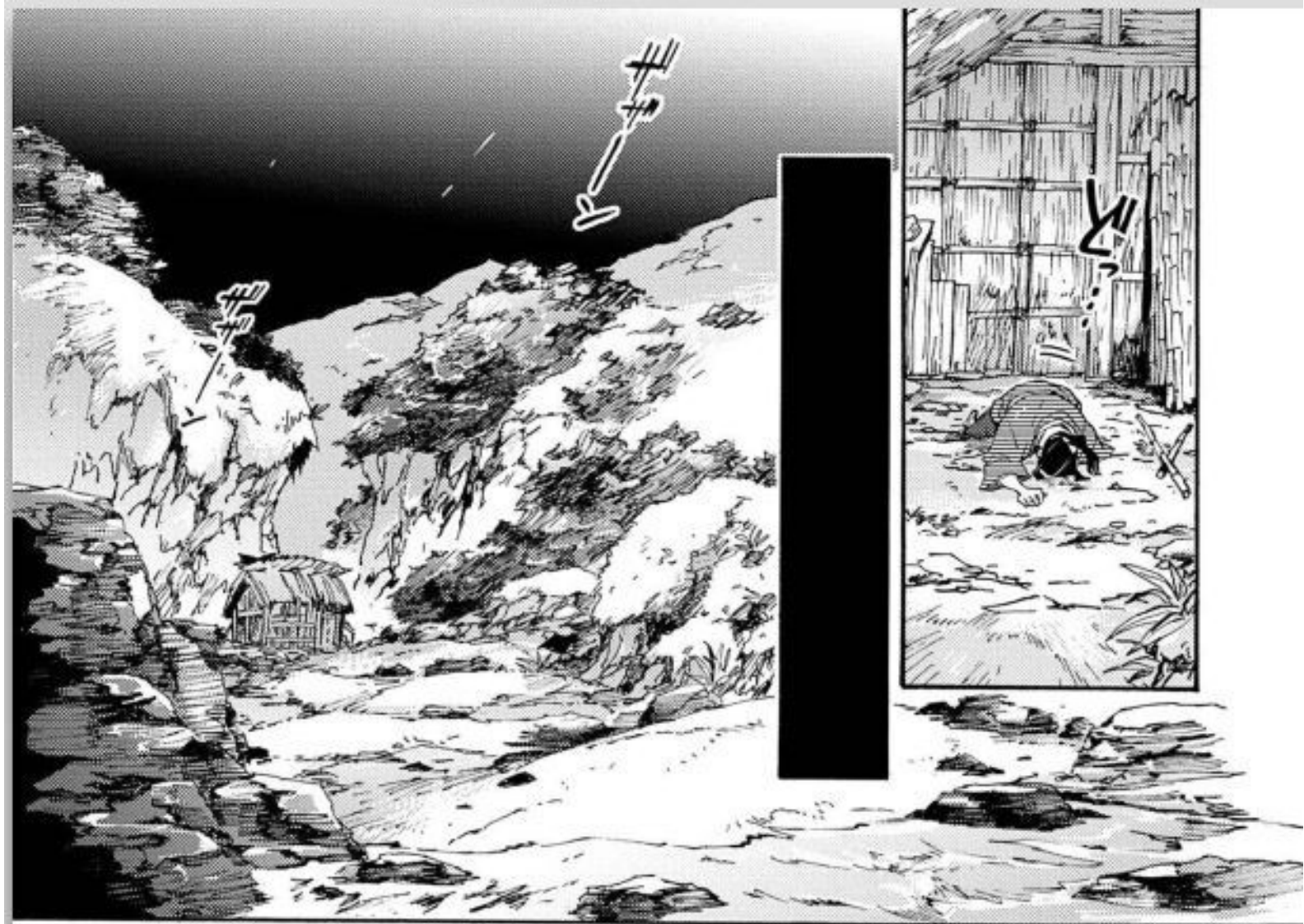
くらっ

あ……



しゅ……

俊寛様……



いらつしやらないな…







そうだ！
そうであつたな
有王

お前は俺の言う事
だけを聞いて生きて
きたのだったな

はい

ならば俺を
殺めてみせよ！

島流しで
落ちぶれた
はじめな主人を
お前の手で！

そして主を殺めた
罪を、業を、一生
背負って生きて
ゆくのだ

どうだ
有王

辛かろう
苦しかろう

俺が
憎かろう！

俺ももう
…疲れた

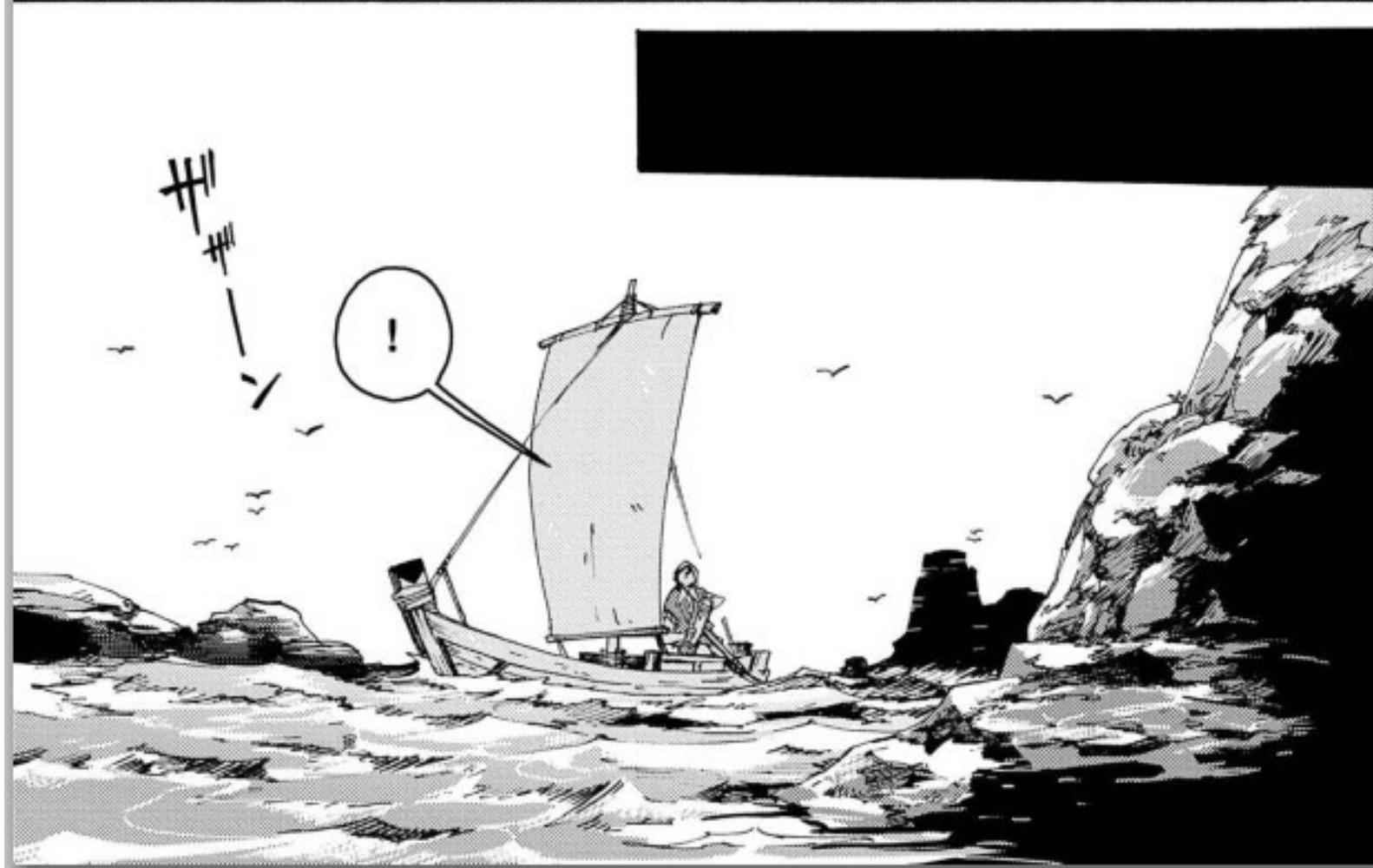
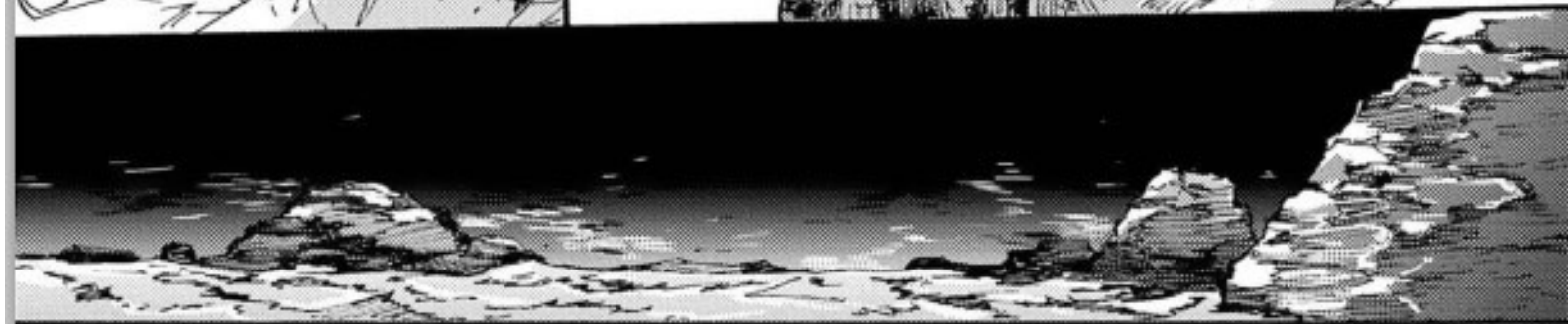
…うむ

さらばだ
有王

うつ…

それでよい

ド
///



おお
いたいた

よかった
来てくれた
んだな

そりゃあ
ねえ

？
そりゃあ
そういやアンタ
別れ際に何か
言っとったが
ようだったか

…ああ
あれは気に
しないでくれ

帰りの
よろしく
頼むよ

へい



アンタ何やら
大事そうに抱えて
いなさるが

そりゃ何だね

京まで荷物
だろうに

…これは
私の大切な
主人だ

わけ
理由あって
自分の一生を
捧げる事になった

そうだな
まず久方^{ひさかた}振りに
京の都を見て
頂こう

——有王、俊寛の遺骨を
高野山に秘めた後出家——

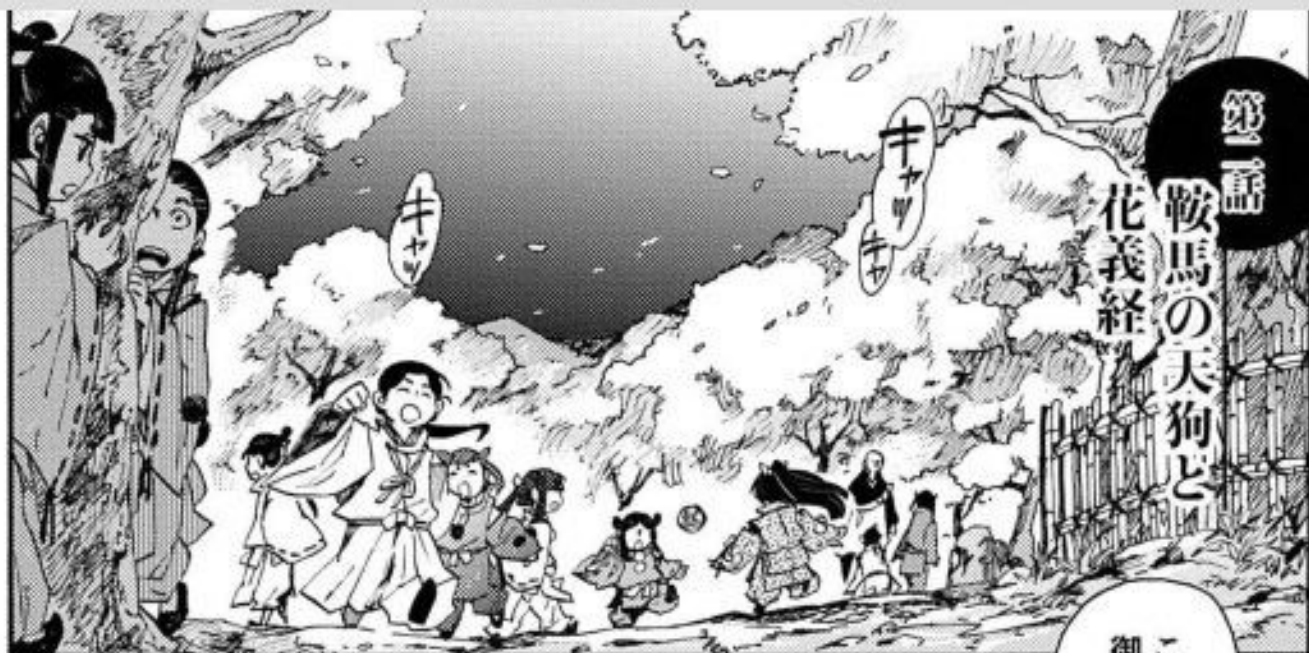
それから——





第二話

鞍馬の天狗と
花義経



これこれ
御子達よ



あまり遠くへ
行つては
いけないよ



お坊様
桜の花が
とっても
キレイ!



うむ
そうじゃのう

——花咲かば



告げんと云ひし
山里の

使ひは来たり
馬に鞍

鞍馬の山の雲珠桜

こう美しいと
何やら別の世界に
迷い込んだようじゃ

牛若！
うしかが

一人でおると
鬼か来たりて
喰われるぞ
こつちで皆と
遊んだら
どうじゃ

おやおや

……
フイ

お坊様
私は牛若が
あまり好きでは
ありません

皆で
遊んでいても
つまらなそう
にしているし

あんな者

鬼に
喰われて
しまえば
いいのに！

な…

何事じゃ！？

オ

オ

キヤ



…見事な
桜じやなあ

人が唄に詠む
心持ちが
ようわかる



さあ早く！

返事をすれば
連れていかれ
ます

命を
とられ
ますぞ！

わん

…ぬしは
逃げんで
よいのか？

わしが恐くは
ないのか？

こっ…

恐くなど
ない！

それに後から
入ってきて花見を
台無しにしたのは
お前だ

何故私が
出てゆかねば
ならないのだ

ふふそれは
すまなんだ

では
こうしよう

詫びに
もっとよい所に
連れていつて
やろう

もっと
よい所？

そこで私を
とりて喰う
のか？

ははは…
そんな事は
せぬよ

ほら

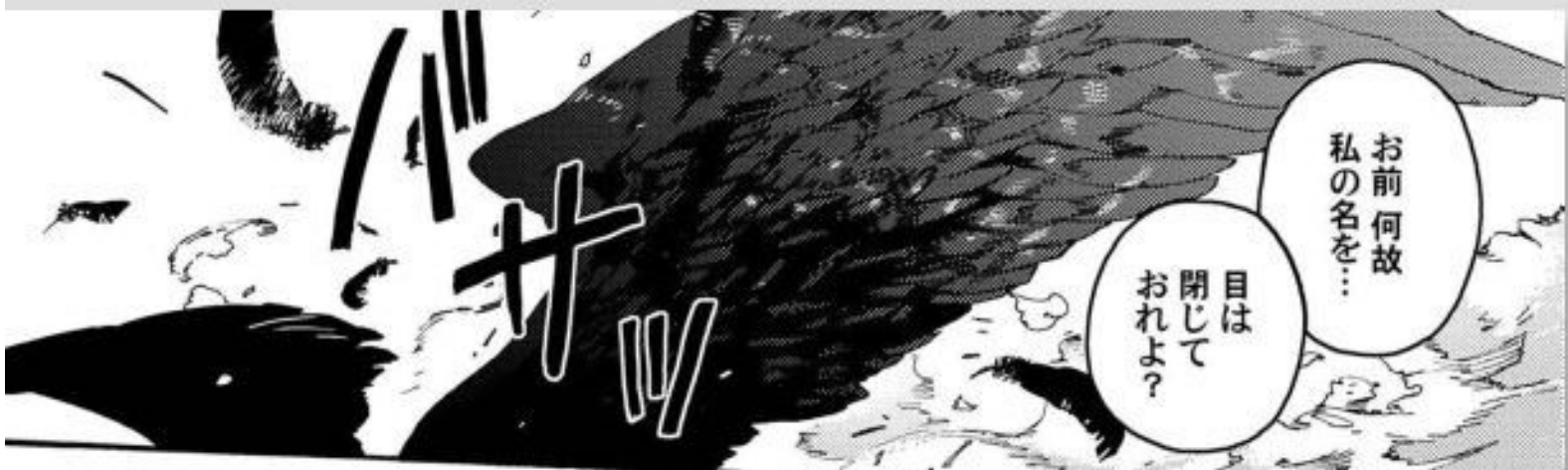
…おお
重い重い

恨み、苦しみ、
悲しみ…人の業を
背負えるだけ
背負っておるなあ

人間の子には
ちと重すぎる

のう？
牛若丸

！



——もう
よいぞ





本当に桜が
うずのよう
じゃ…

!

…すごい!



ふふこれは
ぬしら人が
我らを模した
面じゃ

どうだ
機嫌は直して
くれたか?

ああ!

お前は本当に
天狗なのか?

何やら絵巻で
見るのと違って…

?

くっく

ようやくと
笑うた
天からずっと
見ておったぞ

他の者達は皆
楽しそうにして
おるのに牛若
お前だけしかめ面で…

しょうが
なからう

私はいつも
独りなんだから

私には父がおらぬ
母とは七の歳に
別れた

鞍馬寺に入り
稚児となつて…

ゆくゆくは
坊主になる
のだそうだ

幸公家などの子弟・子女

比べて
さつき一緒に
おったのは
平氏の子らじゃ

どうして
私が

楽しく
あろうはずが
ない、か

なる程
それは
辛^{くる}からう

平氏の公達^{幸さんたち}は皆
きらきらと輝いて
おるのに

自分は寺で
念仏修行

源氏の大將の
子であるのに
なあ？

……！



な…
私の名のみ
ならず何故
その事まで

ん？

わしは
只の天狗では
ないぞ何でも
知っておる

おぬしの元に
正門坊という
坊主が尋ねて
きた事も



そやつが実は
源氏に縁の者
であつて

おぬしの父が
源氏の大將・義朝
である事をおぬしに
告げた事も

そして
父の命のみならず
母の常盤まで
清盛に奪われて
いる現状も全て
知っておる

全く
悲しいな
牛若よ

…か



悲しくなど
私を馬鹿に
しているのか!?

ただ…

—ただ
くやしい

ただ力のない
自分が不甲斐
ない

ただただ
どうしてよいか
わからず

途方に暮れて
いるだけだ…

先日母上から
手紙をもろうた

私が坊主の元で
勉学に励んで
いる事を喜んで
いらつしやった

あと
立派な僧に
なれ、と…

そして
そうするしか
私の未来は
ないし母の
命もない

そんな事は
ようわかって
おる

わかっておる
のに私の心は
ぐらぐらと
揺れるのだ

わかっておる…
私はわかっており
ますのに…

母上え~~~~~！

わああ
ああん！！

おうおう
泣くな
牛若よ

おぬしはよう
わかっておる

そして
知った

己れが
源氏の子である
という事を





今のこの世の
絶対権力者

「平家にあらずんば
人に非ず」とまで
言わしめる男じゃ

先日などは
なんと沈む夕日を
呼び戻したそう
だぞ

沈む夕日を
呼び戻す？

そんな事
できるわけが

そう
普通ではない
なあ

つまりは
そういう事じゃ

相手は常軌を
逸した人間ぞ

普通では
勝てぬで
あろうな

だからよ
牛若、相手が
沈まぬ夕日なら

おぬしは
散らぬ桜に
なれ

修羅に対するには
己も修羅にならねば
なるまいよ



のう？
牛若丸



— 承安四年 —
京都 —



おい
沙那王って
いやあ...
シッ！

大きな声で
言うんじゃないよ



沙那王



こりやあ最近
宿場を荒らしてた
盗賊団じゃねーか



ほら
あれ見て
ごらんよ

それが
ねえ

何でまた
こんな事に
なってるんだ

そうさ鞍馬寺の
暴れん坊の稚児
牛若丸――

それにしても
牛若丸様

昨日はおかげで
助かりました

金商人・吉次

源氏の
遣された
御子だよ……

盗賊につけられて
いたとは気付かず
我々も油断して
おりました

お前達は
都に入る前から
目を付けられて
いたんだろうな

ともかく
俺をねらった
六波羅平氏
じゃなくて
よかったよ

…牛若丸様
それで密会の際
お話しした通り

奥州行きの
件にござい
ます

奥州には
藤原秀衡様が
おいでです

平氏に属さず
源氏とも縁の
深いお方…

源氏復興の為に
お力添え頂ける
信に足る人物です

私は商売する傍ら
秀衡様より貴方様の
事を伺っております

※京都の警護を行っていた平家の武士

…それと昨日
私が鞍馬寺へ月詣でを
した際に和尚より
聞きましたが

牛若丸様

鞍馬は貴方を
出家させるつもり
ですぞ

…だろう
なあ

そもそも坊主に
なるといふ約束
だったからな

今鞍馬寺へ
戻ればお前の言う
通り出家させられる
だろう

では…!

ああ

京を出るのは
まるで逃げ出す
ようで嫌だが
仕方ない

奥州へ
下る

はい！
秀衡様も
待ちかねて
おいでです

早速出立の
手はずを…

昼間は人の
目もあります
から…



異形の者が
姿を現す時は
時代の変わり目
という

牛若丸様は
きつとその変革に
必要な方だ

では
ひとまずは
これにて…



鞍馬の犬天狗
僧正坊

——夜
都の外れにて
落ちあいましよう



待て
吉次



は…では
近江まで
離れましょう

近江の鏡宿に
宿場があります

夜の間に紛れて
都を抜ければ
明日には…



都はいつ
誰の目か
あるか
わからん

落ちあうのは
都を出てから
にしよう



ああ
わかった

大きな声じゃ
言えないん
だけどねえ

何でも大天狗に
見初められて上等な
剣まで授かったって話
だよだから平氏の
……

おい

その話

もう少し
詳しく聞かせて
くれぬか

ひっ…

じっ…

な何だい
アンタ…
詳しくも何も
全部噂話だよ

源氏の御子が
出家もせずに
剣術三昧で

いやそこ
ではない

大天狗から
剣をもらったとか
何とか

ああ
それはさ

その御子が
鞍馬山に
まつられていた
毘沙門天の剣を
授かったとか

そんな時や寺が
大騒ぎになった
らしいよ

その
者ども！



散れ
散れ
散れ!



集^つて何を
しておる!

そんな物は
見てはならん!

鞍馬の沙那王が
やったなどと
狂言じゃ!



〽

〽

散れ!

ほら
アンタも
早く
逃げな!

六波羅の役人
だよ! 嫌な奴ら
が来ちまった



毘沙門天の
剣——

ガッ





この弁慶^{べんけい} 西国修行の
折より刀剣千本を
集めんと志し

現在
九百九十九本
集める事ができた

最後の一振り
は特別に良い刀剣を
と心に決めてあった



どうかその剣を
我が物にして
修行の成就を...



しかし沙那王
...源氏の御子が
何故その剣を

!



その沙那王とやらが
持つという
毘沙門天が剣—

まさしく一千本目の
剣にふさわしい

こりや
驚いた

いつこっちへ
戻ってきたんだ？

我々がどこの
衆徒かそんな事は
どうでもよい

六波羅平氏が
申しておった通り
本当に井慶では
ないか

…どこの
衆徒だ

比叡山の
者か？

井慶よお前は
乱暴狼藉で比叡を
追い出されたのに

行く先々で
各地の衆徒と
もめ事を起こして
いたそうだな

播磨の書写山も
焼いて追われる身
だそうじゃないか

ろくに学問も
わからぬ修験者
はこれだから…

井慶

お前の
存在は

比叡の山を
汚す

ふん…

全く比叡山は
相変わらずだな

山にこもり
頭ばかりを肥やして
何が面白い!?

何をほざくか
無法者!

覚悟せよ!

ドサッ





何を言う

貴様らが
最初に…

ははは
ははは
はは！

京での最後の
夜に坊主の
ケンカが見れる
とは思わな
かった

ふふっ

!?

どうした
デカいの
早くとどめを
さしてやれよ

俺か？
捨てる名で
よけりや
教えてやる

鞍馬寺の
沙那王…牛若丸だ

…何者だ

沙那王！
牛若丸！

俺は名乗ったぜ
坊主 お前も
名乗れ

…我が名は
武蔵坊弁慶

修行の為各地を
廻り刀剣を集めて
いる

今が九百
九十九本目

源氏の子か！

沙那王
よ

おぬしが腰に
さげているのは
毘沙門天が剣と
聞いた

私の
修行の成就に
ふさわしい
一千本目の剣だ

ここで出逢えるとは
まさに五条天神の
おぼしめし

私と勝負
せよ！



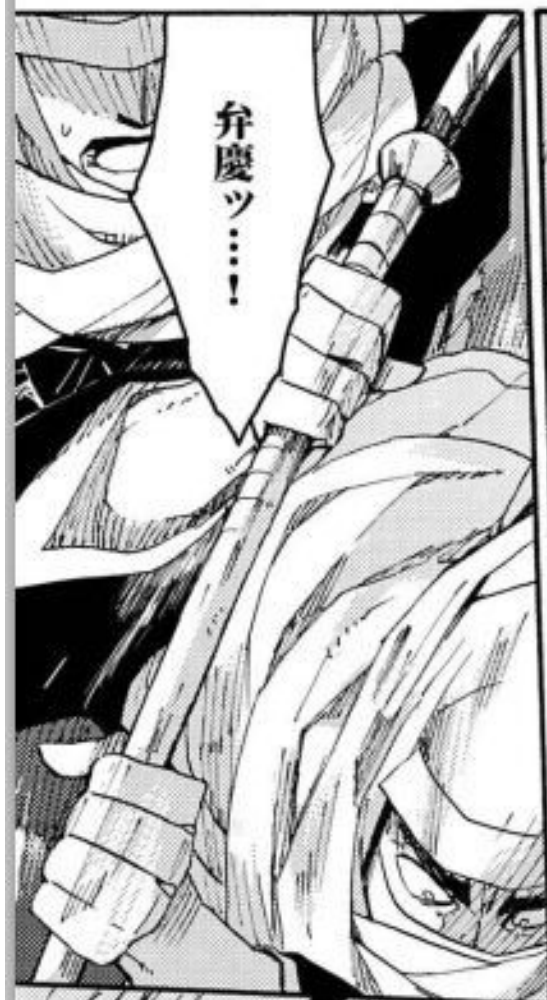
まだ
終わってない
みたいだぜ



…何言っ
てんだお前

その前に
自分の置かれた
状況を考えろよ

ほら



弁慶ッ……!



おっと



…知らぬ

今の私には
お前しか
見えぬ
からな!



邪魔を
するな











貴様も成敗
してくれるわっ！

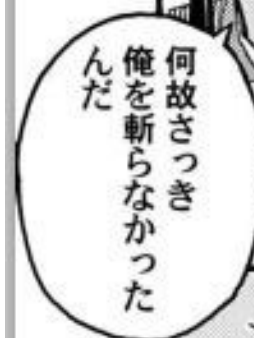
チツ…

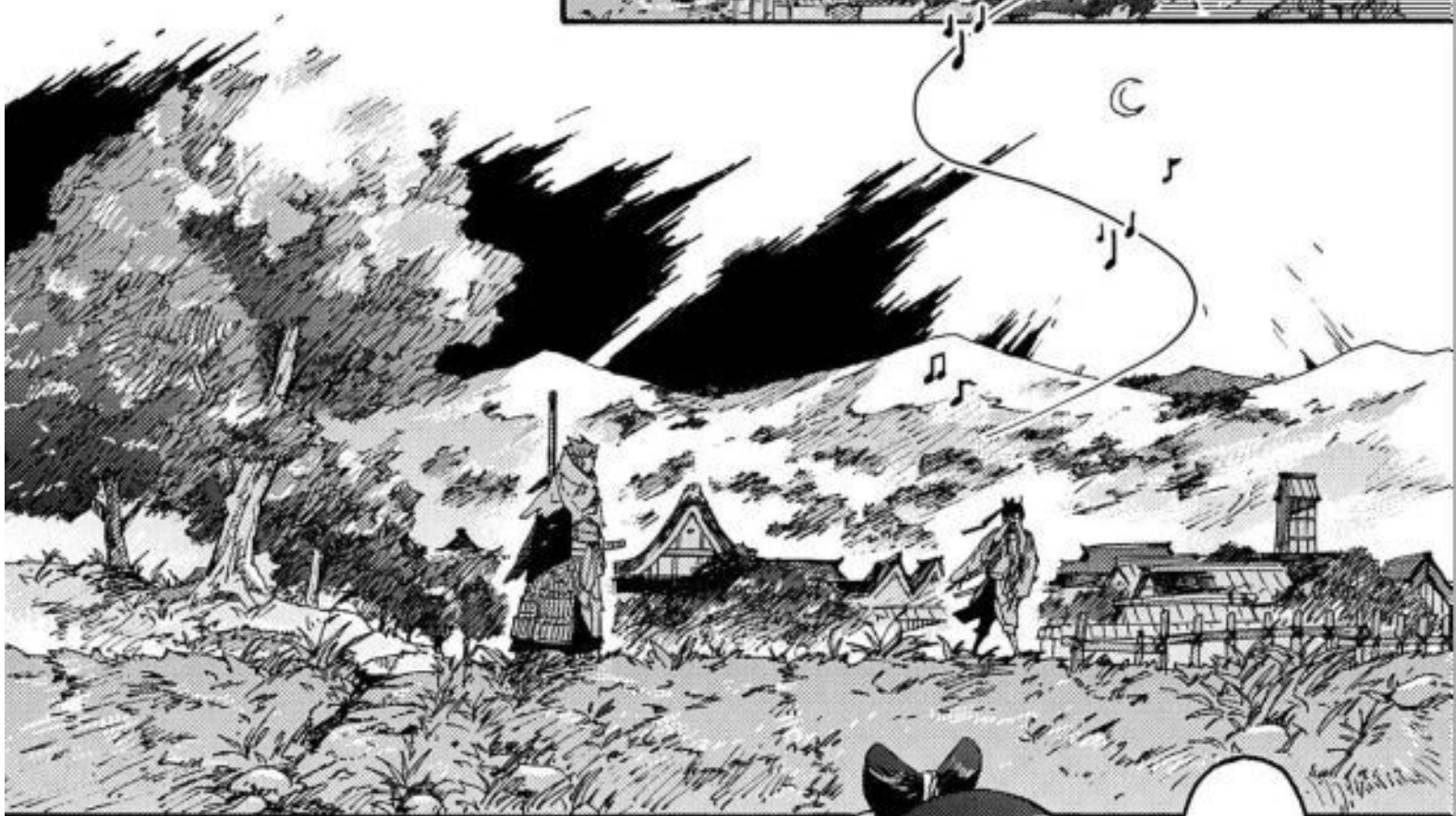
!?













そうか
俺の笛の音が
悲しくてついて
きたのか

それは
すまな
かったな

キー……

母上に今生の
別れと思い
吹いたんだ

俺なら
大丈夫だ

ここでもう
本当に
さらばだ

達者で
暮らせ

さっ

さらばでは
ないっ!!

この笛ももう
必要ない

…あ

…貴方は
これからどこへ
行こうというのだ

源氏の御子が
供の者も連れず
一人で…

まさか

私を家来にして
下さい!!

「まさか平氏に
反旗でも翻す
つもり」か？

！

「まさか」
…何なんだ？

源氏の子が
一人で京を
抜け出す理由
なんてそれしか
ねーだろ

俺は

うつ

牛若丸様ツ!!

勝負は確かに
私の負けです

私は貴方を
斬る事は
できなかった

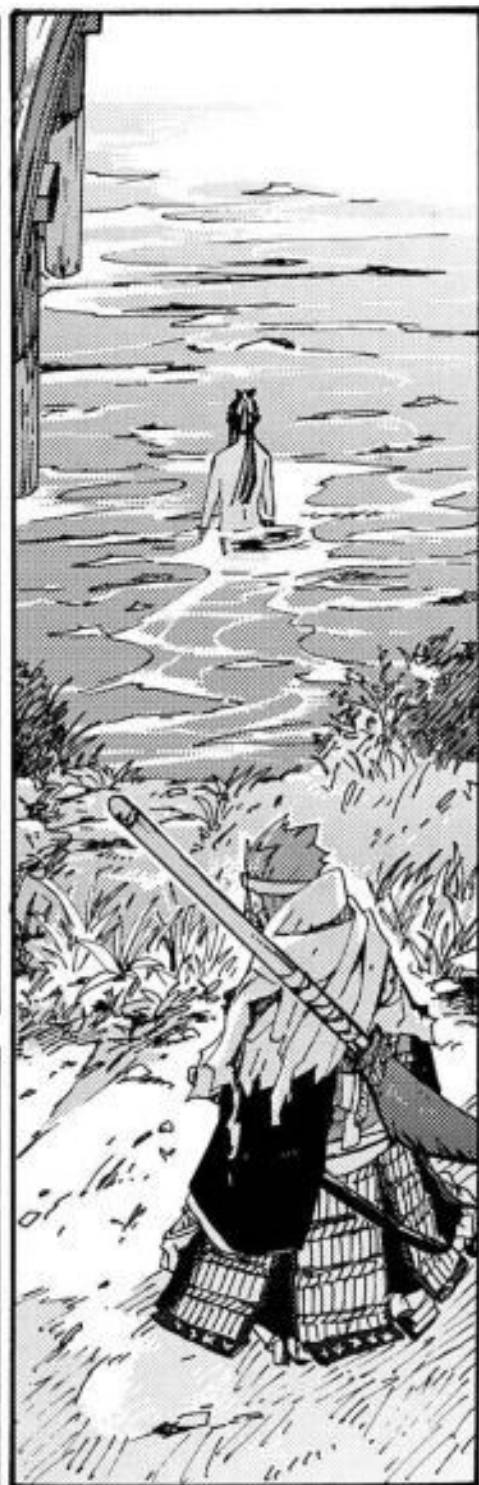
比叡の僧ごときが
貴方を斬るのが
許せなかった

貴方が平氏を
討つというのなら

私も貴方と
運命を共に
したいと……!

ハッ
ッ







いえ…その
川になど
つかって

寒くはない
のかと

—この後
吉次という商人と
落ちあう事にな
っている

共に奥州へ
向かうんだ

さすがに
血まみれで
向かうわけにも
いかねーだろ

だから…

奥州には
源氏側の
人間が
いるからな

ぼし
ゃ

ううっ…

うっ…

うっ…

何だ
お前

泣いてんのか

…申し訳
ありません

牛若丸様の事を
考えたら
涙が出てまいり
ました

本来なら
華やかな公達
としてあられる
方が

何故
修羅の道を
選ばれたのか

それを考えると
悲しいのです

面白い
なあ

いつぞやの
天狗と同じ
事を言う

俺はそんなに
悲しい運命
なのか？

ははは！

あはは
はは！

…ふっ

血が騒ぐ

じっとして
いると体が
ざわめく

俺自身は
悲しくなんか
ないけどな

ただ



…何という
事をなさる
のです

こんな
どうい
おつもりで



まあ
そうだな



あ…

自分では
抑えきれない
程だ



——私は
無学で



ああ何と
甘美な
頭がとろけ
そうだな



鞍馬で俺に
手を出した奴は
たたられるんだ
そうだなぞ



馬鹿
少しは加減
しろよ

これだから
坊主という
やつは…



…はっ

はあ

はあ



…今まで
どんな僧の
お相手を
されてきた
のです

鞍馬の稚児は
皆貴方のように
誘うのですか



手を出してきた奴は
寺から消えてたから
本当かどうか
わかんねえけど

…貴方が
消されたのでは
ないですか

恐ろしい
御方だ

でも

そんな所も
含めて私は
貴方が愛お
しいのです

本当に
恐ろしい

私は貴方と
出会ってまだ
幾ばくもたつて
ないというのに

牛若丸様
貴方は私のすべてを
手に入れられて
しまった

ああ

我が君……！



ふふ

今宵は星が
騒ぐのう

お

何だ

……ふむ

はは
そうか
それも
よいな

これから大勢の
人間を巻き込んで
渦となるので
あろうな

あの時の
雲珠桜のように



昨夜の私は
どうかしており
ました……

牛若丸様に
あのような
無体を……

……

ああ……

やはり怒って
いらつしやる
のか……

私は何という
事を

おい

俺の剣を
とってくれ

はい！

まさか私を
斬……

えっ!?

どうぞ

うん

牛若丸様ツ

何を……!





弁慶



これで元服は
済んだ

名も
源九郎義経
とする



お前の主人の
名だ

よく覚えて
おけ

第三話 [鞍馬の天狗と花義経]

END

CONTRACT OF CHERRY BLOSSOM GUILT
PRESENTED BY TOKIYA FURUO



— 治承四年
後白河院第二皇子
以仁王により
平家打倒の令旨が
発令

これにより
東国の武士が
次々と挙兵する

— 同年八月
相模国・石橋山 —

あ
—
…

第三話

義経と頼朝

もうなんが
駄目じゃない？

死んじや
おつか

自害しよ
自害！

殿…

何を
おっしゃいます

今
まさに東国は
決起の時

源氏の正嫡である
頼朝様貴方が
そのように
弱気な事で
どうなさいますか

いやそもそも
今回の決起は
早すぎるんだよ

平氏側の兵が
三千私の持ち駒
三百だぞ

結果この様だ
無様に敗退して
追いつめられた

もう大将の私が
死ぬしかない
だろう

こんな洞窟
隠れていたって
すぐにバレるよ

正直 お前達も
邪魔だ 多人数で
いると目立つ
じゃないか

頼朝様 そんな事
おっしゃらないで…

?

何を
されている
のです？

工阿 写経

殿オオオ!!

ふふ
冗談だ

?

誰か来る

一人…
か？

…どう
されました

シッ

!



ここは我らが
しのぎます

その隙に殿は
お逃げ下さい！

えっ…？



頼朝様…



誰ぞおるので
あろう！

出て参れ

出てこぬと
火を放つ…

騒がしいぞ
郎党

黙れ

お前達が
探しているのは
私だろうか？

望み通り
出てきてやったぞ

鬨り殺すなり
何なり好きにしろ

頼朝公…
か？



私は梶原景時と申す者
おはかたは
大庭景親殿の命により
貴公を討ち取りに
参った



ほう



貴公……
何故
逃げぬ？



殺されるのが
怖くはないのか

私が討ち取った者は
皆無様に命を
請うたぞ



一昨日から
逃げっぱなしで
疲れた

やるなら
さっさと
やってくれ

……



逃げた所で
状況が好転する
わけでなし……

私は無駄な
努力は嫌いなんだ



はっ 貴様は
馬鹿か？

怖いのならば
最初から
拳兵などしない

寺に駆け込んで
出家しておるわ



殿ッ!!

…？

さあ
お逃げ下さい



何？

私は今貴公に
致命傷を負わせた
事にします



大庭殿には
「頼朝らしき者に
致命傷を負わせたが
取り逃がした」

「この山一帯を
搜索したが
いなかった」と
申しましよう

これでおそらく
追討も止むはず
です

さあ早く！

何のつもりか
知らんが…

信じられん
なあ

我々が
背を向けた
途端 斬り
かかるつもり
なのでは
ないか？

ああ
そうだ

貴様
しばらくそこで
土下座している

その間に
逃げてやる

どうだ
できるか？



よし



殿
それは…

!



山の北側には
大庭殿の兵が
うろついています

西側に迂回して
海路で阿房へ
向かうのが
宜しいかと



ざわ

ざわ



この辺一帯は
兵を近寄らせて
おりませぬが



おいポーツと
するな

逃げるぞ

あつハイ!





今貴公を
失えば

ここ
東国は平氏も
入り乱れての
混沌とした地と
なるでしょう



そもそも
掲げる大義が
ない



私の仕えている
大庭殿はかつて
貴公の父と運命を
共にした間柄で
あるにも関わらず
無様にも平氏に
従っている
東国を平定する
度量もないし



私も無駄な
努力は嫌いな
んです

誰に
就くかぐらい
承知して
おりますよ



頼朝様…

さっきお前に
「死ぬのが怖いのならば
挙兵などしない」と
言ったが

本当は死ぬのが
死ぬ程怖いから
挙兵したのだ

殺されるより
殺す方がマシ
だからな

それでもお前は
私に就くのか？

だが
貴公は

私が刃を向けた
時は何ひとつ
動じる事なく…

家来が側に
おるからなあ

醜態を
さらせば己の
保身に関わる

……

私は自分の
身が一番
可愛いんだ

自分の為
ならば逃げるし
戦いもするし
嫌なヤツにだつて
頭を下げる

…それは

つまり私の軍は
それ程追いつめられて
いるという事さ



奇遇ですね

—何だ？

私も貴公と
全く同じです

己の保身の
為に動いている



早く逃げれば
よいものの何故
この状況で
自分を咎める？

ほう？

その保身の
為に私を
逃すか

この男の
本心が読めん
わからん



あの…
早くこの山から
離れた方がいい

箱根には
まだ他にも
兵が控えて
おりますゆえ



それとも
まだ他に何か
御用が？

ん？

ああそうだ
忘れていた



えっ？





何なのだ二体！

……



必ず生きて
また会おう！



ありがとう

礼を言っ
てなかつ
たからな



本当に
わからん



—奥州・平泉—





何を一人で
悶えておる

大方よからぬ
妄想でもしてた
のだろう

佐藤忠信
ただのふ

佐藤継信
とつきのふ

こんにちは！

継信に
忠信…

放っておいて
くれ

大体お前達
兄弟も昼間
からフラフラ
遊びに来るな

遊びとは
何だ！

お前が時間を
持て余している
だろうと思つて
槍術の相手に
来てやったのだ

ありがたく
付き合え！

お前
またか…

まあ時間を
持て余していた
のは確かだ

付き合つて
やる

ようしゃ!!

弁慶様

義経様は
まだお休み
ですか？

中へお邪魔
しても大丈夫
でしょうか



あああ
もう起きて
おられるの
では



忠信！

お前はいつも
義経様 義経様と
いい加減にしろ
義経様もお前に
かまっていられる程
暇ではないのだぞ



やだな兄上様
僕は義経様の
お役に立ちたい
だけだよ



心配しなくても
変な気を起こし
たりはしません！

そおいう事を
言ってるの
ではなーい！！

じゃあ
ね♡



こちら
忠信！



…すまん
な
不肖の弟で

いや…



よ

っ

ね





様♡

よお
忠信



…さすが義経様
寝起きでも
隙がない

お前も
いい加減
飽きろよ

何故か俺が
継信に怒られる
だろうが

えっ
何故!?

知るか



すみません
不肖の兄で…

叱って参り
ます!

まあ
待て

いい兄貴じゃねーか
お前の事を大切に
考えてくれてるんだろ

俺も兄は
何人かいるが
話をした事も
ないぞ

義経様…

馬鹿何で
お前がそんな
顔してんだ

俺は気に
してないし

すみま
せん

あの
そういえば
義経様

井慶様が
心配して
おられました

ああそんな事が
もうすぐ忙しく
なるからな

今の内に
存分に引き
こもっておこう
と思ったんだ

?

何の?

最近あまり
外に出られず
引きこもって
おられると…

忙しく…

なるの
ですか?

ああ

ほら
来たぞ

何かあったの
ではないかと
おっしゃって
いました



ですが秀衡様
今の情勢だからこそ
向かわねばなりません

兄が窮地であるのに
駆けつけない弟が
どこにおりましょうか

それと

平氏は東国の次は
ここ奥州にも攻め
上がってくる
でしょう

ここの経済力
兵力は大きな
魅力であり

脅威でも
あります

遅かれ早かれ出陣
する事になるなら
早い方がいいかと

.....

…そうじゃな
たしかに義経殿が
申される通りじゃ

出立なさる
がよい

ワシの方
からも兵を
出そう

ありがとう
ございます

義経様あ！

忠信！

秀衡様より
仰せつかりました

義経様の
お力になる
ように、と

そうか！

我々も
お供します！

付いてきて
くれるのは
ありがたいが
……

戦が怖くて
泣くなよ？

非道い

……！
義経様

お前達
兄弟が付いて
きてくれたら
心強い

よろしく
頼むな

よ……

な、泣くんじゃ
ねーよ冗談だ

♥
義経様あ
全力でお守り
します……♥

……



継信

義経殿に
随行させるに
あたつてお前に
ひとつ頼みたい
事がある

頼みたい事
……ですか？



うむ

まずは平氏を
含め東国
武士の実力を
見計らつてきて
欲しい

それと
何より

頼朝公の
真意だ



お前頼朝公が
どのような御方か
知つてるか？

いや？

義経様の兄上で
いらつしやるといふ
事しか知らぬ



ため息とは
お前らしくないな
継信

弁慶……



頼朝公の
真意……？

義経殿は
平氏が奥州を
狙つていると
言われたが



頼朝公も
おそらく同じ
であろう

はあ

奥州が欲しいのは
平氏だけでは
ないからな



わははは
ははは！

—駿河国・黄瀬川宿—

誠に傑作で
あったなあ！

平氏の追討軍
水鳥の羽音を
敵襲と勘違いして
逃げだしおったぞ

どれだけ我々を
恐れておったのか
！

いざ源平の
合戦となったのに
これでは物足りぬ

ははは
ははは
はは！！

あつけない
戦でしたな
頼朝様

戦どころか
私など何も
してないぞ

——全く

武田も合戦があれでは拍子抜けだろうなあ

投降者もかなりいる模様です

敗走する平氏どもを翻って朝廷への見せしめにする？

殿それも楽しそうですが

ふむ…まあほつとこう

それよりこれからどう動くか、だ

我々としてはまずは東国一帯をまとめてはいかがかと…

安田 三浦 武田 木曾 田舎

佐竹勢などの不安要素を抱えたままだと西を攻める時背後を狙われかねません

そそうだよねだって私まだ大将として見て尊えてないもんネ…

殿っ！

まず東国の皆に認めて尊わないとダメだよネ…

大々大 我々の殿は頼朝様掛けですー！！

そう？じゃあとりあえず武田と安田にはこの後遠江と駿河を任せちゃおうか

朝廷の許可なく任じて大丈夫でしょうか

私が許可するよ

そもそも私は朝廷から謀反人扱いだし好きにやらせてもらう

それからよく働いた者に褒賞を

殿！





これへ参れ

うむ確かに
その証拠は

そもそも
あの者は本当に
弟君なのか？



殿は先程から
ずっとおし黙って
おられるな

初めて
お会いする弟君で
あるのにな



!?

嬉しいな
あああ♡

…はっ



無礼を承知で
伺いますが

あの者は本当に
弟君でいらつしやる
のですか？

…そうだな
間違はなく
私の弟だ

奥州に行って
いた事も
聞いている

何より父に
よく似ているよ

かつて源氏を
率い東国を
治めていた父に

私などより
ずっと

憎らしい程
よく似ている



——いものた
平氏の将ら十一名を討ち取り
梟首は一千余り… 幸あらし首

続く屋島の戦いでも
奇襲戦術を仕掛け
平氏はあっけなく降参

義経殿は真
鬼神のごとき武人との
評判でございます

最終話

船義経

…はあ

はあっ

はっ…

……

後白河院に至っては
義経殿へ「大夫黒」なる
院の愛馬を与え

そのご寵愛を
深くしておられる
ご様子

一ノ谷
屋島での勝利で
瀬戸内の制海権を
得た後は

頼朝様もご承知の通り
この三月に長門国
壇ノ浦にて見事
平氏を打ち破ったので
ございます

……

京では殿の代官として
治安維持にあたり
貴族だけではなく
民からの信も厚く…

ぶっ

あっはっは！

…殿？

大江

下がって
良いぞ

九郎には
私が自ら
追って
沙汰を下す

…それは後白河院が
我らの進言を無視し
義経殿を^{けいびいし}検非違使に
仕官させた事を
承知の上での沙汰ですか

ああ

※京で犯罪等の取り締まりを行う役人

…頼朝様

景時
お前…

あはははっ

どれだけ
九郎が憎い
のだ

大江が話している間
ずっと苦虫を
噛み潰したような
顔をして

私はお前を九郎の
監視役も兼ねて
平氏討滅の戦に
派遣したが

お前の報告は
九郎の悪口ばかり

……あつ！

はあつ…

悪口ではなく
本当の事を
報告したまで
です

義経様の戦い
ぶりは見事

なれどまるで
悪魔のように
ございました

戦の為とはいえ
民家を焼き払い

奇襲によって
相手の将を
討ち取る

戦の定法を
全く無視した
やり方です

情け容赦の
かけらも
ない…！

だが九郎が
おらねば
お前はまた西国の
海の上だな

義経様の無謀さは
神剣と安徳天皇を
海の底へ
沈めました

！

あの男は
頼朝様

貴方の
目指す所を
わかっていない

わかって
いないのです

あは

あは

あは

ただ己の
復讐の為に……

景時……はあ
ああつ

うう……

頼朝様

どうぞ私に
御命令
下さい

義経様を討て
と――

んん……

ふっ……

ちゅっ

ちゅ

ん





……
さっきの
言葉

聞かなかった事に
してやる

九郎は私の
可愛い弟だ



頼朝様
しかし！

このままでは
義経様が朝廷と
組んで力を
つけるかも
しれません

さすれば貴方のお立場が…



そうだな
平家滅びし今
私が朝廷の立場
ならば

九郎を手中に収め
私の力…武士の勢力を
削ぎ取るな



はっ…

はあっ

はっ…
はあっ…

頼朝様…

でもそれも
面白いから
しばらく放って
おこう

頼朝様……!

というかもう
うてる手は
うてるだけうった
からなあ

……

鎌倉の殿

……どうで
あった

土佐坊昌俊の
事にごさいます

土佐坊は義経様の
暗殺に失敗
結果六条河原にて
梟首となりました

……!?

そうか
まあそう
だろうな

暗殺……

御苦労だった
下がれ

は

あーあ

九郎怒ってる
だろうなー

どう
しよっか？

頼朝様…

では貴方は
最初から
義経様を

はさばさ

ん？

何を言う？
九郎は私の
可愛い弟だぞ

九郎を滅する
者があれば
私自ら仇を
討ってやる

……義経様に
反逆を起こさせる
おつもりですね

それは
私が決める事
ではないな

だが九郎は
きっと

きっと最後まで
私の可愛い九郎で
あってくれるだろう

頼朝は平家滅亡の後
「天下草創の時」として
朝廷の反勢力を追放

武家政権樹立の為
動き出す

この動きを恐れた
後白河院と朝廷は
頼朝追討を義経に命じる





これに対し頼朝は
京へ大軍を派兵



すると院と朝廷は
手の平を返すがごとく
今度は義経追討の
宣旨^{せんし}を発し



ついには義経は
謀反人として追われる
立場となった



義経様

静は悲しゅう
ございます

あんなに愛を分かち
合った仲というのに
きつと妾を永遠に
伴って下さると
信じておりましたのに

妾を置いて
西国へ行かれる
と申します
のか――

静！

その辺にして
貰おうか……！

あら武蔵様

弁慶……

先程から
ずっといる
義経様から
離れんか！

いやあよ

いつから
そこに？

愛し合う二人を
引き裂くなんて
武蔵様は何て
酷い御方…

黙れこの
エセ白拍子!!

ひどい

この静とかいう男。

白拍子舞の名手で
天下の名人と
謳われている

神泉苑での雨乞いの行事の際に
出会いそれからずっと
義経様に随行してきた

弁慶船を差配する
事ができたんだな

義経様も
まんざらでは
ないご様子…

はい

大物浜から
出港し西へ
向かいます

豊後へ着けば
頼朝様の
干渉も…

ん
♡

弁慶…

ぽろっ

…義経様 この弁慶
主従の契りを
交わしてから
これまで命を賭して
仕えて参りました

勿論これからも
そのつもりです

そして兄君に
追われる貴方を
静の舞が癒して
きたのも事実

……
ご無礼を承知で
申し上げます

私は貴方を
主従を超えて
愛しているのです

一介の法師風情が
源氏の血筋に懸想する
など恐れ多い事で
ございます

ですがこれを
こらえる術を
知らぬのです

今も貴方が
静とそのように
お戯れになるのが

弁慶

お前いつから
そんなに
臆病になった？

俺を愛していると
いうなら力尽くで
でも自分の物に
すればいいのに

どうせ
堕ちる身だ

俺は許すぞ

お堕ちる身などと
そのような事…

やめて下さいー！

継信は馬鹿な男
だったな

俺をかばって
死ぬなど

全く
馬鹿げている

その弟の
忠信も馬鹿だ

どれだけ俺を
責めるかと
思っていたのに

義経様

これからは私が兄の分も
貴方をお守りします！

お前も静と一緒に
ここに残っては
どうだ

こうしている間にも
兄は私を追い詰めて
いるはず

これからは
死出の旅となるぞ

…弁慶

……



今まで
御苦労だったな



おらん!



あっ
貴方は

俺を馬鹿に
している
のか!



身分が違うと、
そこまでの男だと
俺を捨ててゆくのか!?

弁つ…

ぐいっ

はあ…

…このまま

はあ…

頭から貴方を
喰ろうてやり
ましょう

俺の臓腑ぞうぶに
貴方を全て
収めれば

誰にも
邪魔される
事なく貴方を
守ることが
できる

お前も
邪魔だ
静

どけ！









会稽山に籠もり居て

種々の知略を
廻らし

遂に呉王を滅して

勾踐の本懐を達すとかや



有明の月の都を
振り捨てて

御身の科の
なき由を
嘆き給はば
頼朝も

終にはなびく青柳の
枝を連ぬる御契り

などかは朽ちし果つべし

ただ頼め、標茅が原のさしも草

我れ世の中に
あらん限りは――

…あーあ

義経様
行っちゃった

アタシ
これから
どうしよう

お母様
磯禪師の所に
戻ろうかな

いえ
それには
及びませぬ

お寂しいのであれば
我らが相手
致しましょう

我らは頼朝様の
家来です

共に鎌倉に
おいで頂きたい

ぐっ！

ゴッ

あつ…!?

ナメてんの？

それで義経様の
妾であるアタシが

ホイホイ
ついていくわけ
ないじゃない

第一
何の御用事
かしら？

アタシを人質に
とったって
無駄よ

たった今
義経様に
捨てられた
ばかり
なんだから

さめ

ざめ...

静殿

義経様のバカ！

うあああ
あん！

アタシを置いて
行っちゃう
なんて！！

…想像と
違う方だな

頼朝様は只
そなたの舞を
御所望である





静殿に於いては
知る必要のない
事である



我が殿は
疲れておいでだ

弟君を討たねば
ならぬ心労も
いかばかりか



天下の名人である
そなたの神仏が舞
慰めとなるだろう

何よそれ



——アタシはね



義経様の為
だけに舞って

義経様の為
だけに祈るの

そんな踊りしか
できないけど
いいのかしら

うむ

それこそ我が殿が
求めておられる舞だ

…はッ

アンタ達の殿
ちよっと頭
おかしいわ

静殿

おいで
頂けるか

そうねえ

そこまで熱烈に
迫られたら
悪い気は
しないわね

行こう
かしら♡

—なんて

シ
ヤ
ッ

言うわけ

ない
でしょ!

うわっ!!

ドッ

ドッ





……
ああっ!?

捕らえよ!



馬鹿な……



屍であつても
見つけ
出すのだ!

姿が見えぬ
捜せ!



……はあ



わー
わー

サッ



じゃあね♡

ひら
ひら

あたしってつくづく
往生際が悪いわあ

大人しく付いて行って
イヤミの一つでも
言ってやればいいものを

でもやっぱり
諦められないん
だもの

こうなったら
どこまでも義経様を
追いかちやあ！

義経様のいない
この世なんて
全然面白くない！

…それに
しても

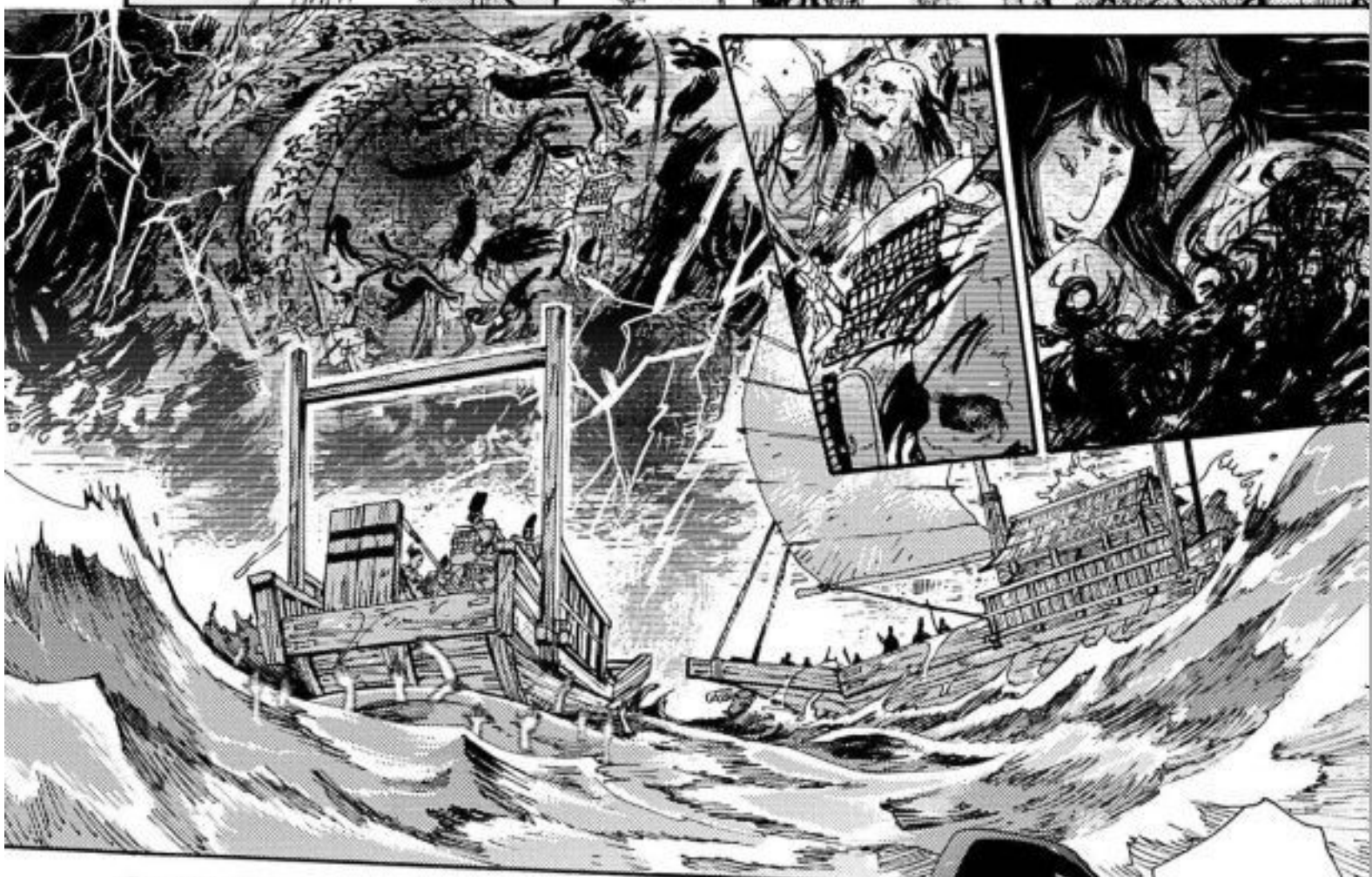
船の行った沖の方
随分様子が
おかしいわね

ゴロ

ゴロ
ゴロ



あらわ
現出れる……！



…義経様
弁慶様

これは一体

忠信！

射るだけ
矢の無駄だ

あれは

平家の怨霊――

戦に敗れ
無念の極みの
果てに

異形の姿に
成り果てた者共

あれは
妖怪です

義経様

視ては
なりませぬ

弁慶
今すぐ
逃げる

弁慶

お前達には

…弁慶

うわあ!!

討てん—

くらあっ

!?

義経様

義経様!!

…ね…さま

十字





ちよつと
お前に会いたく
なったのでな

あつ
彼奴らに
混じつてみた

……

合戦での
英雄も今や
兄に追わ
れる身、か

それが運命
とは言え
悲しい事だな

…何の用だ

早く戻らないと
井慶達が…

義経

儼らと共に
来ぬか？

儼は
お前を

迎えに
来たのだ

なに恐れる
事はない

ただお前という
器から魂を
取り出すだけだ

お前はただ空より
高いところから
見下ろすことにな
るだけだ

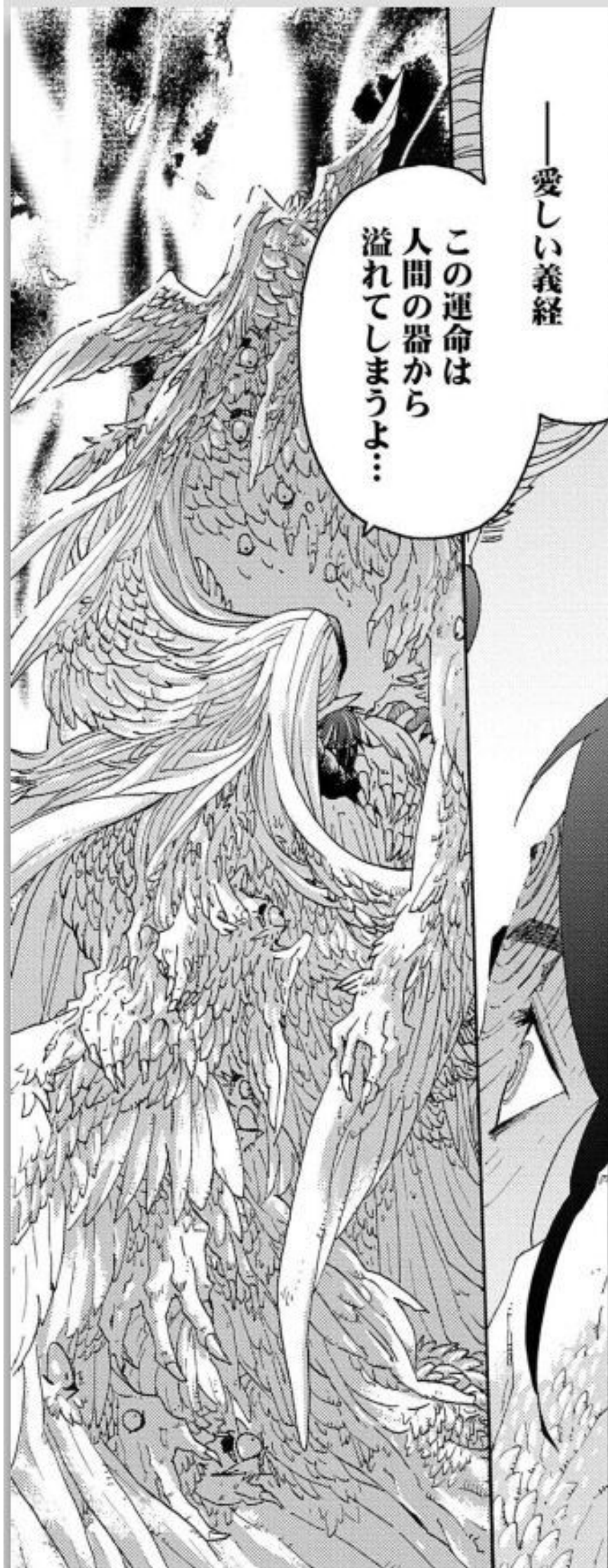
お前の仲間を
世の全てを

そう

お前の兄ですらな

——愛しい義経

この運命は
人間の器から
溢れてしまうよ…





そうか
もはや
ここまで…

義経様

この弁慶

死んでも
貴方を
お守りします！

後の世で
また――



何か視えたの
ならば

お前の
運命の
ひとつだろう



俺の
運命……

どうで
あった？



…？

今は

んん？



……



そうだな

悪くはない
運命だった



……十方仏乃…知是事
是法不可示言辭相寂滅

諸余衆生類…

南無妙法
蓮華經

オオオオ



弁慶どけっ！

義経様！

こ…
ご無事で…!

— 弁慶 —

お前本当に
俺と来るのか?

死ぬ運命で
あつても?

…私が
死より
恐れる
ことは

義経様
貴方と離れる
事です

貴方へのこの執着は
私の咎……ですが
そうさせたのは
貴方の咎……



例え死んでも
この両の腕は
あなたを
離しませぬ！



よく
言ったな
井慶

ならば
俺も
お前を
離さんぞ



未来永劫
共にいよう



ありがたき
幸せ…!



…は
あ



義経様つ
お元気に
なられたの
ですねっ!!

忠信…

うわあ
ああん
良かつた
あああ♡



魔を断つ
刃だ

法力を使い
これをもって
調伏しろ



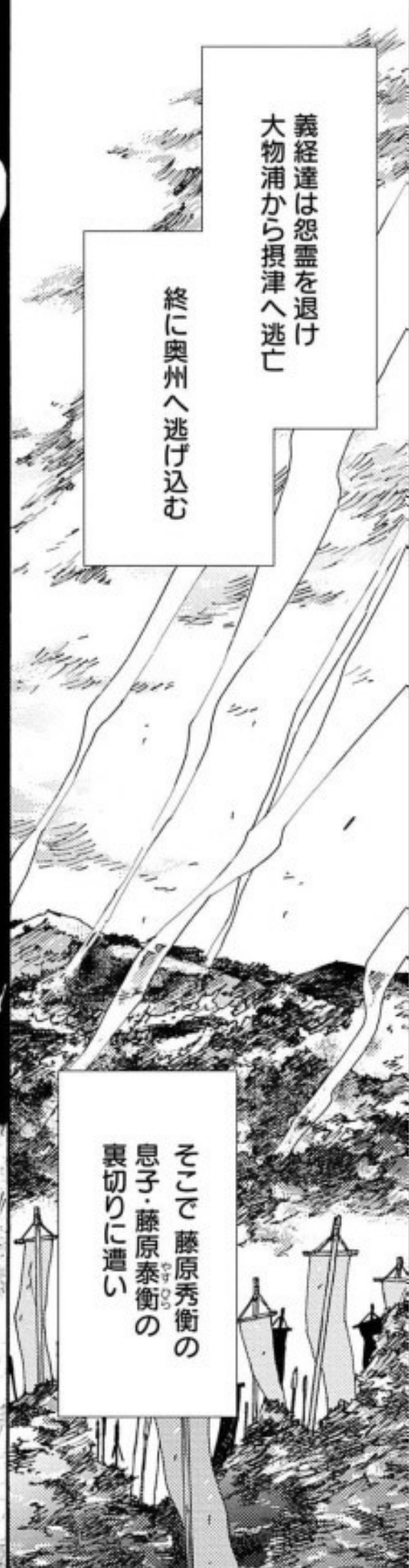
弁慶

この剣を
使え



はっ

—その後—



義経達は怨霊を退け
大物浦から摂津へ逃亡

終に奥州へ逃げ込む

そこで藤原秀衡の
息子・藤原泰衡やすひらの
裏切りに遭い



文治五年 泰衡軍に攻め込まれ 義経は衣川館にて自刃



弁慶は最後まで義経を守り
そして死んだという



頼朝様

平氏との戦では
一切鎌倉から
お出になら
なかったのに

奥州征伐には
自ら出陣され
るのですね

泰衡は
可愛い義経を
討った憎き敵だ

私自らの手で
首を挙げでやる

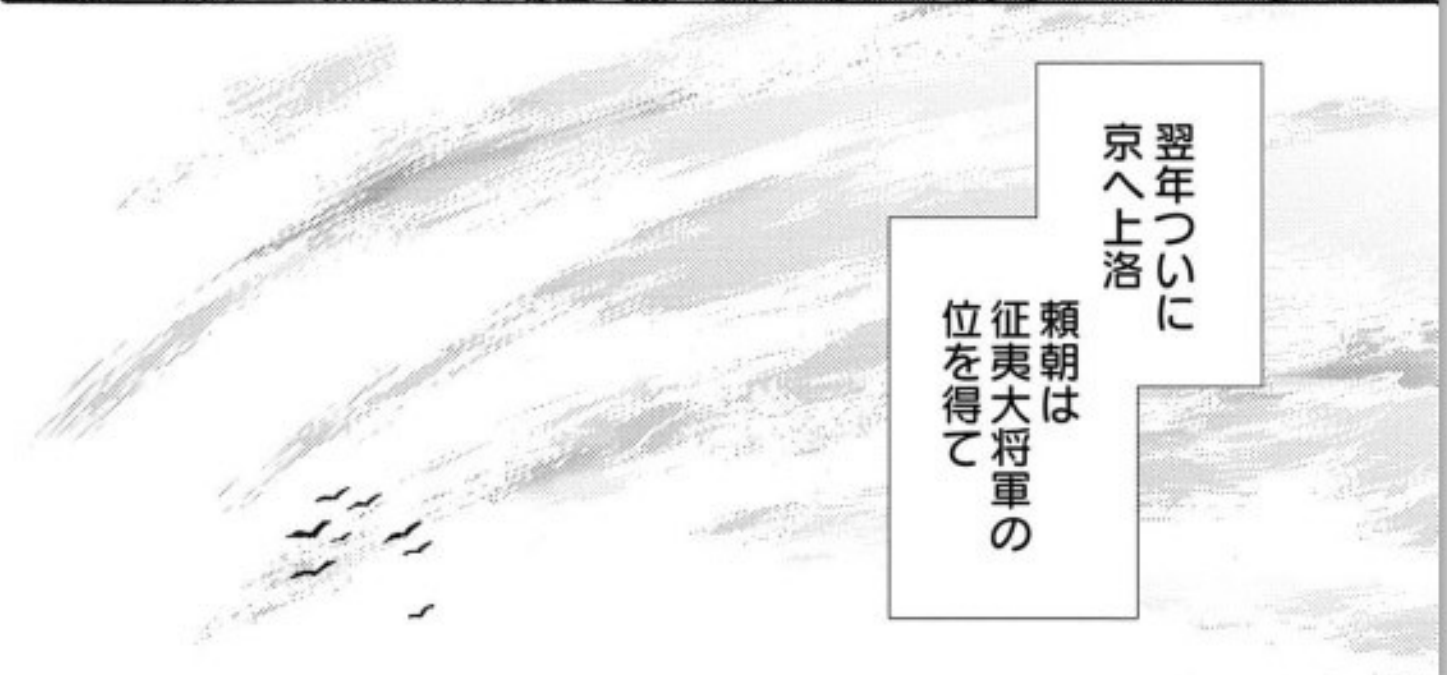
頼朝は自ら軍を
率いて奥州へ出陣

恐ろしい方だ



自ら追い詰めた
弟の死すら
利用して政を
するのか

頼朝の軍は
奥州藤原氏を
圧勝の後
平定する



翌年ついに
京へ上洛

頼朝は
征夷大將軍の
位を得て



ここに
鎌倉幕府を開く――

詠う青山





なんじゃ
行慶ぎょうけい

耳障りで
あったか

そういう事を
申しているのでは
ございませぬ！

全く

平経盛へいけいもりが長男
清盛入道の甥

平経正

平家の公達さんだちである彼は
稚児としてここ仁和寺に
仕えて修行の身

修行といっても
何の修行だか

バンバン

仁和寺御室
覺性法親王様の
御値遇ごぢぐうあつて

琵琶の名器
「青山」を賜った

名器を賜るだけあって
確かに琵琶の腕は良い

ともすれば
野暮ったく
聴こえてしまう
その音色だが

彼は荒々しく
まるで辻風のよう
かき鳴らす



公達と
もてはやされて
いてもやはり
武士の子か

私は！

琵琶を弾いては
いけないと言っ
ているのではなく

今は学問に
勤しむようお願い
しているのです

貴方は平家の
御子として将来
の――

うるさい
のう



少し黙って
おれ

ようやく音に
色がついて
きた頃じゃ

…なあ

頼むよ
行慶





修行中である
私の心を酷くかき乱す



彼が弾く「青山」の音も



私はこの男が
苦手だ

寵童として男に
愛される術を心得て
いる事も





目が合ったくらいで
動揺してどうするか

行慶 おぬしは確か
経正様 お付きで
宿直しておったな

※そばで守護すること

はい

どうじゃ
経正様は

は...どうと
申されました

美しい御子
ではないか

さぞ嬉^{うれ}びも
楽しかろう

ムッ

…私は経正様に
智力体力を養って
頂くため
仕えているのです

そして経正様は
とても賢い御方

きっと私の期待に
答えて素晴らしい
御人になって下さる
でしょう

只それだけで
ございます

そうだ

心を動揺させる
事はない

私は自分の責務を
果たすのみ



大方今宵も
また稚児の誰かと
密会でもする
のだろう

…まあ
そう責めて
くれるなよ

今はまだ何の
権力もない童だが
将来何に化けるか
わからんからな

これも「縁」と
いう事だ見逃せ

お前に言わせりや
俺も法親王様も
同じ「稚児ぐるい」
かもしれぬがな

—それより

お前こそ
經正様に
関して
どうなのだ

！

今をときめく
平家の公達

仲良くしておかぬ
手はないぞ

ははは
怒ったな！

怖いから俺は
そろそろ行かせて
貰うよ

おい
覚一！



何奴…

っ…

!? 経正様

こんな夜中に
どうなされたの
です

行慶

行慶
どうしよう

行慶…!

…!!

は…?

「青山」が
失くなったの
じゃ!

ええ!?

覚性様と
お話している
時は確かに
あったのに

ちよつと目を
離れた隙に
失くなって
しまった

すぐに辺りを
探したが
見つからぬ

まるで煙のように
消え失せてしまった

……
どうしよう

それから寺の
隅から隅まで
探して廻った

だが
見つからぬ

見つからぬの
じゃ行慶

あれがないと
私……

私……!

経正様!

落ち着かれ
ませ経正様!

落ち着いて
この行慶に
お話し下さい

いつ何時
どこで青山は
失くなったのです

……今日の夕刻
本堂に覚性様と
居た時に

右の余間に
青山を置いて
おいたのじゃ

覚性様を
お見送りした後
余間へ行ったら
失くなっていた

あ……
行慶

ゆっくりで
構いませぬ

順を追って
お聞かせ下さい

すぐ辺りを
探して…

見つから
なかったから
庭に降りて
床下も探した

それから隣の
礼堂も探して

…今まで
ずっと探されて
いたんですね

ああ

でも見つからぬ
心当たりのある
場所は全部見て
廻った

…終正様
もう辺りは
真っ暗です

これでは
見つかる物も
見つからない

後はこの行慶に
任せて部屋に
お戻り下さいませ

でも

大丈夫私は
貴方よりずっと
長くこの寺に
居ります

それに少々
心当たりも
ございますゆえ

ひとまず
お戻りを

お御足も
泥だらけでは
ないですか



あれがないと
私は生きて
ゆけぬのだ

行慶頼む
何としても
見つけてくれ



青山…



あれを
手放す時は
即ち私が
死ぬ時…

青山と私は
一心同体
青山があつて
私の存在は初めて
意味を成すし

わかつて
おります

それだけ
ではない

青山は只の
琵琶ではなく

仁明天皇の時代
唐土よりもたらされし
名器中の名器

それを
失くされたと
あつては

経正様もただでは
済まされますまい

うっ

う…く
ひく

※今の中国

それだけは
避けなければ

…経正様！

ですからもう
お嘆き下さい
ますな

貴方に泣かれると
私はどうしてよいか
わかりませぬ

青山は
私が命に代えても
見つけて参ります





あははっ

やだなあ覚一様
ご冗談ばかり!

なんの冗談
などではないわ

その鐘の
付喪神が
俺の上に
こう...

うわあ〜っ

うわあ!



な

何だあ!?

覚一!

ドン!



おるので
あろう
覚一!

行慶だ



話がある
出てきてくれ

ぎよ行慶
様...?

あやっ...



お前が書庫を
よく使うのは
知っている!

出てこぬと
お前が東寺の
稚児にも手を
付けている事を
大声で叫んで
回るぞ

ぽ!

とっ!





いつ...!?

あっ...



何用だ
行慶!



何と「青山」
が...!?

ああ

うむ

くれぐれも内密に
頼むのだが

失くなった時の状況
から考えて外部の者や
僧侶の仕業とは
考えにくい

なる程な
そこで稚児らが
怪しいと

法親王様がこの頃
経正様にご執心で
いらっしゃるから…

それをよく
思っていない児も
いるだろう

お前はその辺の
事情に明るいから
何か知っているのでは
ないかと

あいう…

何だ

悪いが少し
下がっていて
くれぬか

すみません

盗み聞きを
するつもりは
なかったのですが
ひとつ気になった
事が

気になった
事？

はい
今日の夕餉の時
姿の見えぬ者が
おりました

そういえば
経正様のお姿も
なかったと覚えて
おります

！
我々は食事は
皆そろって頂くので
何かあったのかと
思っていたのですが



この寺に入って
間もない稚児達です

入ってしばらくは
法親王様に
優しくして
頂いてたのに

わー

最近では経正様と
青山に夢中で
こちらを見ても
下さらず

青山が失くなれば
また自分たちを
見て下さるのでは
ないかと

経正様が法親王様
をお見送りして
いる間に――

どこに
やった！

こっ……

こめんな
さ……

青山は

経堂の
閼伽棚の下
に埋めた
そうです

もう今日は
遅いですから
明日の朝に
でも……

たっ

経正様！

密仏に供えるための水棚





青山……！

…何重にも
絹の布が巻いて
ありますな

あの児らなりに
大切に扱ったので
ありましよう



そんな事は
せぬ

手を痛めたら
バチが握れぬ
ではないか



おっしゃる
通りです

ああほら

また裸足で
駆け出されて…

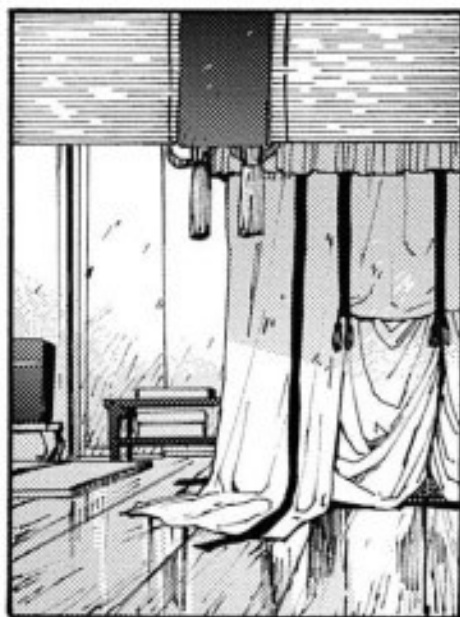
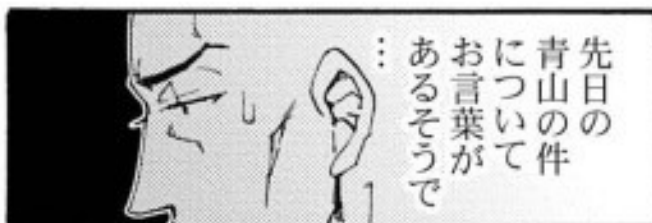
しかし経正様が
児らをぶつのでは
ないかとヒヤヒヤ
しました

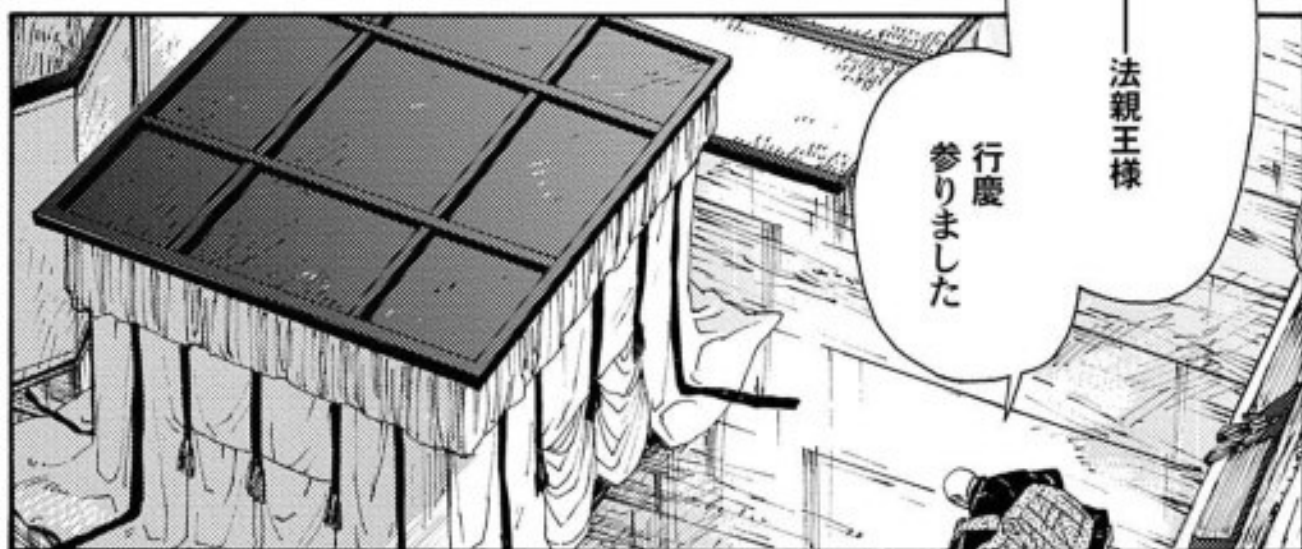


よく
我慢なされ
ましたな

私には貴方の
方が心配だ







失くなった青山を
見つけ出してくれた
そうじゃな

経正より
聞いた

あ

はあ…

大儀で
あったぞ

う？う

は…

恐れ多い
お言葉…

ドッ

ドッ

経正には私から
よく叱っておく

あう！

のう？
経正

はあつ…

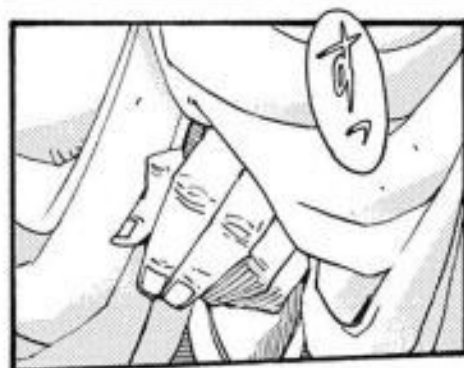
はあつ

行慶
…

あ、あ

ンッ…

…



そなた
演技が
上手すぎ
たのう

こうやって煽れば
私の腕からそなたを
奪っていくくらい
の気概を見せてくれる
と思ったがな

…行慶は
そのような事は
致しませぬよ

私に触る時も
まるで腫れ物に
触るかのように
扱うのですから

私がこの寺に
居られるのも
あと少しだ
というのに

経正そなたが
元服して
寺を出ると
寂しくなるのう

そなたの弾く
青山の妙なる音
手放したくは
ないのだが

勿体無い
お言葉です
覚性様

八つの頃よりこれまで
私を愛し慈しんで下さり
ありがとうございました

御用命とあれば
すぐに青山を共し
馳せ参じましょう

うん

うん

ほら私の事は
よいから早く
行慶の所へ
行ってやりなさい

青山紛失も
私の至らなさ
ゆえの事じゃ
罪には
せぬ



今まで何を
修業していたのだ

自分の脆い心に
気付かぬふりをして
欲を断ち切った
つもりでいて

心はこんなにも
経正様に
執着している

抑えきれぬ
ほどに









行慶 私はいつも
お前を感じておったぞ

私に対する愛情も
劣情も 怒りや嫉妬も

気付かないわけが
なからう

だって私もお前を
感じていたんだもの



経正…

様

そして
お前を想って
青山を弾いた

全身全霊を
青山に委ねて
弾いた

……
お前も

気づいて
おったくせに

わ私は

寺に入り
袈裟を着けた
時から

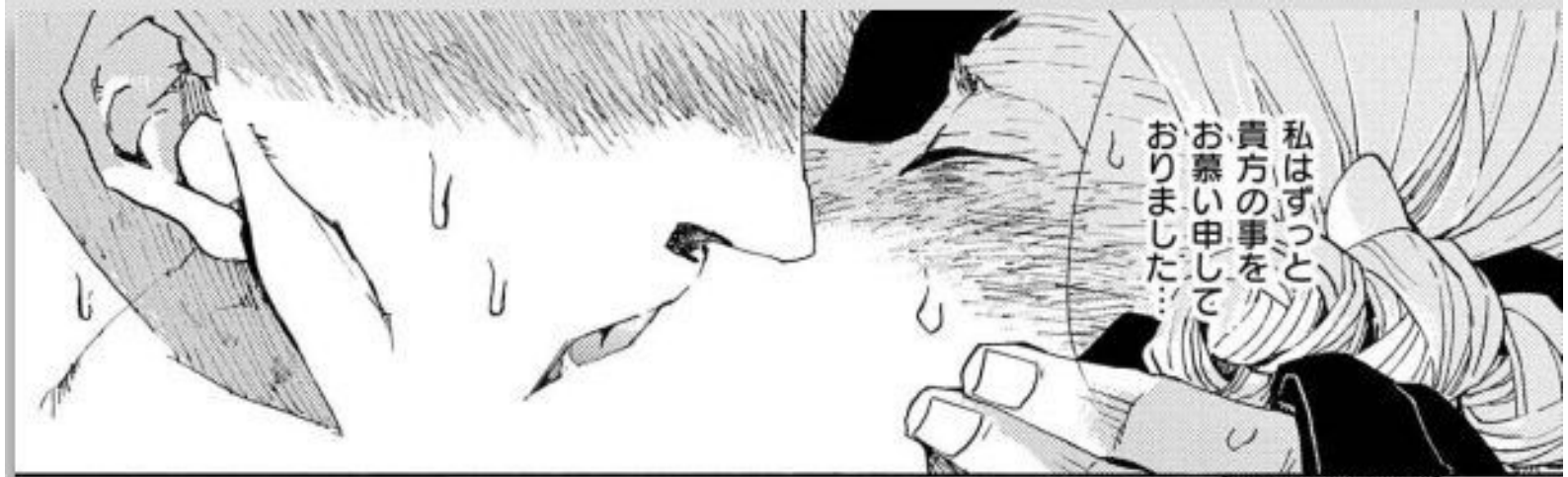
修業僧として
不浄を断ち
戒律の元に
身を置いて

…だから

このような
事…ッ







私はずっと
貴方の事を
お慕い申して
おりました……



一晩中
経正様を
貢った



そして私は



己の中にこんな
仄暗い欲望が
渦巻いているとは
知らなかった

泣いて喘ぐ
経正様を
組み敷いて
半は力づくで
犯した



夜が明けたら
きつと
輕蔑される
だろうと

そう思っ
ていたのに



經正様は
私を見て只
微笑ったのだ



まるで
蓮の花が
開くように

—それから
数日後



私は見送る事すら
できなかった



經正様は元服され
仁和寺を出て
いかれた

經正様を見ると
無様に泣きわめいで
しまいそうで

彼の晴れの日を
汚すわけには
いかなかった

——寿永二年
七月——

——「青山」を？

は
平経正様は
西国に下るに
あたり

名器「青山」を
田舎の塵に
還すのは
口惜しいと

木曾義仲という
東国者が

御室に
返上すべく
参じられました

倶利伽羅峠にて
平家軍に勝利

そのまま
京に上洛
するらしい

平家は体勢を
立て直す為
いったん西国へ下る

だが要は
「都落ち」と
いう事だ

清盛も逝去し
この先平家は

うむ

確かに
預かった





経正様…

お久し振りで
ございます

…立派に
なれましたな

何用だ？
もう見送りは
よいのだぞ

早く寺へ
戻れ

私は！

……

見送りで
ここまで付いて
きたのでは
ございませぬ

私は

貴方を
引き止めに
参ったので
ございます

経正様



貴方は
討死になさる
おつもりで
西国へ行かれるの
でしょう!?



青山を手放す時は
自分が死ぬ時

昔そう
おっしゃっていた

「運」が

再び平家に
向いてきたら
その時は改めて
青山を賜ろう

そういう事だ



この行慶も
共に連れて
行って下さい!

戦の経験は
ございませぬが

……
どうしても
行くとおっしゃるの
ならば

僧兵としての訓練は
積んでおります

きっと
お役に

駄目じゃ

…私が命に
代えても貴方を
お守りします

だからまた
寺へ戻ってきて

青山を
弾いて下さい

昔の様に

法親王様も
きっとお喜びに…

…行慶

…何故

青山も私も
置いてゆく
のです!?

何故

共に死のうと…

行慶

青山を
頼む

また稚児達が
いたずらで
隠したり
しないように

ああお前も
一度弾いて
みるといい

私がお前を
想って弾いた
ように

お前も私の為に
弾いてくれ

私と共に
戦場へ来る事は
許さんぞ



行ってくる

経正様は
そう言って

微笑って
京をお発ち
に
なれた

昔と変わらぬ
笑顔だった





平家が滅び
源氏の世となった
今日でも

青山は変わらず
ここに有り

その妙なる音を
響かせる

後記

この度は「桜花登の契」をお手に取って下さり、誠にありがとうございました。

今回は平家物語の中で、能や謡曲で有名なくだりを元に話を作りました。俊寛、鞍馬天狗、経政、船弁慶などなど……

島生活×ツキタのこい

読者で取組がしくもありますが、楽しんで頂けたら何よりでございます。

芥川龍之介の俊寛の島生活を描くつもり……

義経に関しては、一谷の辺りに描いてなかなりと少々中途半端な事になってしまい、申し訳ないです……

勝手な設定を作ってしまった所もごめんなさい……

全く……坂東武者の子など茶々しいばかりで何かよいのやら

経政様は雅なお育ち。武士なれど教養があり、芸事にも長けた御方……

舟慶は……この繊細な情愛がわかるわけが……へんなお……

経政様こそ私が生半端お仕えするにふさわしい方だ

……いとおしく……
……の排他性……
……の中に私に……
……する恋愛の……
……かあるのだ

都坊主にツキタ……
……もわが……

ヤァー
ヤァー
ヤァー

藤府も……
……富士の洞窟を……
……舟慶さんよう……

コミックスに……
……まとめて頂くに……
……あたり、お世話に……
……なりませう、G……
……編集部の……
……様、色々とお……
……下さりありが……
……ございました。

……何より……
……お読下され……
……感謝……
……ありがとうございます……
……させていただきます……

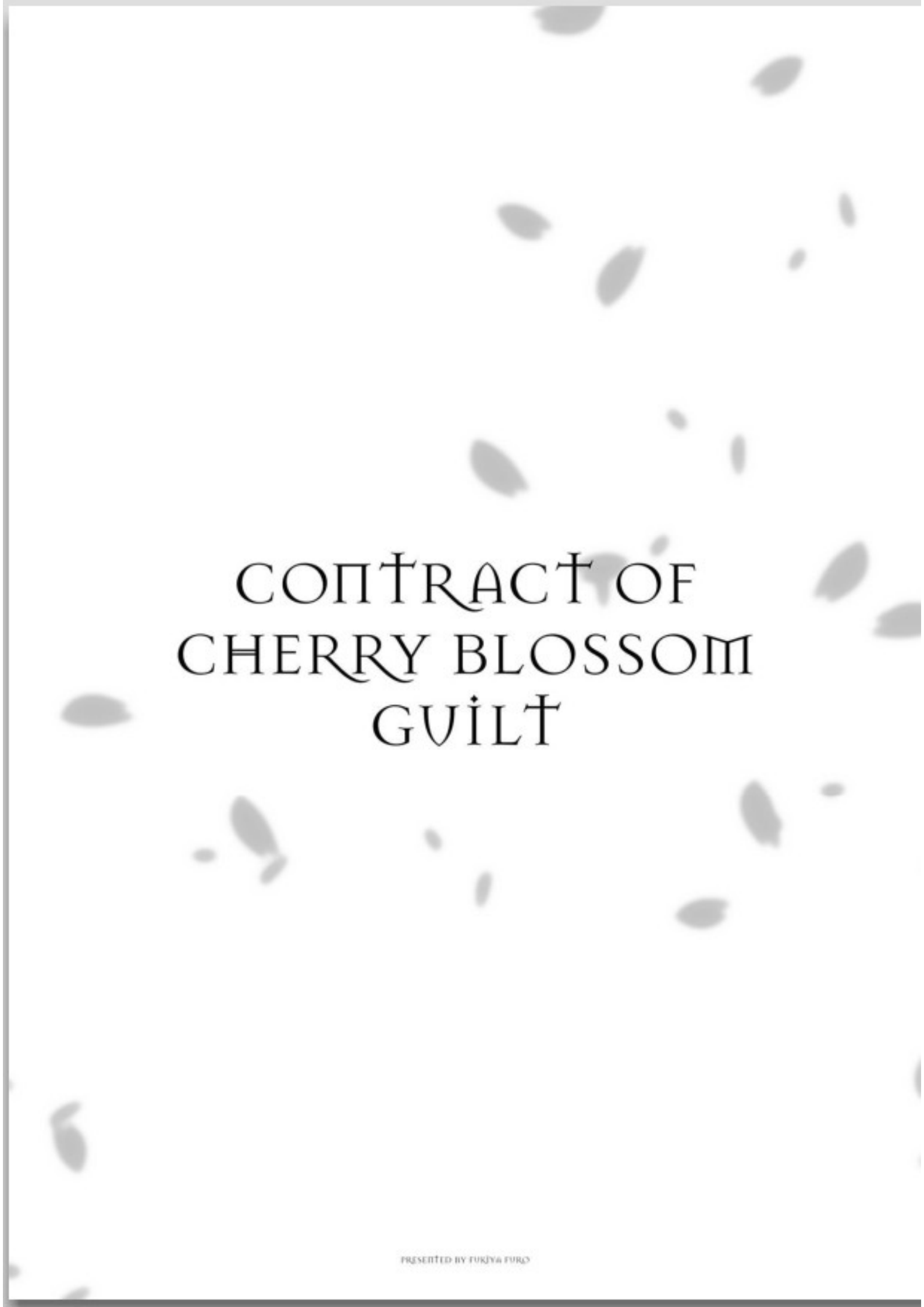
吹屋ッロ

佐藤……
……兄弟……
……も……

特に忠信は昔から人気だったらしく、歌舞伎など色んな作品に登場します。
(何故かキムネになったり、英語では猫として題材に……)
……今……

猫耳コスをして……
……葛盤で戦う格闘……
……キアラで人気……
……

完

The background of the entire page is a light gray with numerous soft, out-of-focus gray shapes scattered across it, representing falling cherry blossom petals. The petals are of various sizes and orientations, creating a gentle, drifting effect.

CONTRACT OF CHERRY BLOSSOM GUILT

PRESENTED BY FUKIYA FUKO

【初出一覧】

「鬼ノ島」2011年 BiQ vol.2

「鬼界ヶ島にて」より改題

「鞍馬の天狗と花義経」2011年 BiQ vol.4

「雲珠桜」より改題

「義経と頼朝」2012年 WebBiQ9月号

「船義経」描きおろし

「詠う青山 前編」2013年 WebBiQ5月号

「経正と行慶(上)」より改題

「詠う青山 後編」2013年 aQtto!9月号

「経正と行慶(下)」より改題

吹屋フロ先生へのファンレターは
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9-3F G-Lish編集部 『吹屋フロ先生』までお送りください。



桜花 咎の契

2014年9月30日初版発行

2015年1月6日第三版発行

著者 吹屋フロ

©Fukiya Furo 2014

発行人 小池政弘

発行所 株式会社ジュリアンパブリッシング

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9-3F

TEL 03-3261-2735

FAX 03-3261-2736

装丁 野中 愛(草野剛デザイン事務所)

印刷所 中央精版印刷株式会社

Printed in JAPAN

ISBN 978-4-86457-096-1

本書の全部または一部の複写・複製・転載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。
これらの承諾については小社までご照会ください。

乱丁／落丁本はお取り替え致します。

■本書の作品はすべてフィクションです。実際の人物・団体・事件等とは一切関係ありません

